

けいじばん 3月の掲示板より

なが びな つち で 「流し雛と土から出てきたばかりのカエルくん」



ひなまつ ねん いつか けいちつ ひ
3月3日の雛祭り と 2025年は5日の啓蟄の日か
なが びな つち で くん
ら、「流し雛と土から出てきたばかりのカエル君」が
がつ けいじばん そうしよく
3月の掲示板装飾になっています。

けいちつ にじゅうし せつき ひと ふゆ
啓蟄とは二十四節気の一つで、このころ冬ごもり
むし あな で ころ
をしていた虫が穴から出てくる頃とされています。

ひなまつ
雛祭り ひな 雛とは、ちい さい こと を あら わして います。雛人形
は、かみ よ しろ となる かたしろ よ 人形（ひとがた・に
んぎょう）の一種です。3 月の上 巳（じょうし さんがつ はじ み
ひ）の節句に、ひ せつく み かたしろ な けが うつ のち
川や海に流し、かわ うみ なが こと ども すこ せいちょう いの ひなまつ
子供の健やかな成長を祈ることが、雛祭り
の元（もと）になったと言われています。もともと（かみ つち）は紙や土などで
つく かんたん にんぎょう ねん わざわ う と のち かわ
作られた簡単な人形で、1年の災（わざわ）いを受け止めた後に川
うみ なが ひななが にんぎょう なが びな
や海に流（なが）されました。これを「流し雛」、人形（にんぎょう）を「流し雛」
といい、その風習（ふうしゅう）は現在（げんざい）も残（のこ）っています。この風習（ふうしゅう）と、
へいあんじだい つづ きゅうていきそく しじょう ひなあそ むす
平安時代（へいあんじだい）から続く宮廷貴族（きゅうていきそく）の子女（しじょう）の雛遊び（ひなあそ）とが結びつ
き、え ど じだい はい ぶ し かいきゅう ちょうにん ひろ
江戸時代（えどじだい）に入（はい）って武士階級（ぶしがいきゅう）から町人（ちょうにん）へと広（ひろ）まり、
ひなにんぎょう かざ い
雛人形（ひなにんぎょう）を飾（かざ）るようになったと言（い）われています。